

第5章 東北圏企業における働き方の多様性

この章では、女性活躍を促す環境を整備する上で重要な東北圏企業における働き方の現状を見ていく。第1節では柔軟な働き方に関する制度（短時間勤務制度、時差出勤、フレックスタイム制度、在宅勤務制度）の有無や育児などとの両立を支援する取組みの実態を明らかにした。第2節では、新型コロナウイルス感染症による働き方の変化、特に在宅勤務が女性活躍推進に及ぼす影響を分析した。

第1節 働き方

(1) 働き方や両立支援に関する制度や取組み

- ・柔軟な働き方に関する制度の有無については、男女とも東北圏と首都圏のスコア差が大きく、東北圏企業は、首都圏企業に比べ、在宅勤務制度等の柔軟な働き方に関する制度および仕事と家庭の両立支援の取組みの整備が遅れている。
- ・特に「在宅勤務制度」については、東北圏女性は15.7%、東北圏男性は21.8%に留まっている。「男性向けの育児支援」は首都圏男性の23.7%が「制度あり」と回答したのに対して、東北圏男性は16.4%と差が見られる。
- ・東北圏女性、首都圏女性ともに柔軟な働き方に関する制度や両立支援の取組みの数が多いほど、育児をしながらキャリアアップが可能だと認識する人が多い。

「Q4-1. あなたの会社の制度や取組みについておたずねします。それぞれの制度や取組みの有無、利用のしやすさなどを回答してください」に対し、10項目についてたずねた。「時差出勤」「フレックスタイム制度」「在宅勤務制度」といった柔軟な働き方に関する制度については東北圏と首都圏のスコア差が大きく、特に「在宅勤務制度」は東北圏女性の15.7%に対して首都圏女性は49.2%、東北圏男性の21.8%に対して首都圏男性は49.6%と、東北圏と首都圏の間に約30ポイントの差が見られる。

東北圏女性が、首都圏女性よりも回答割合が高かったのは「社内保育所」のみであるが、12.3%と割合自体は低い（ χ^2 二乗検定 $p < 0.05$ ）。

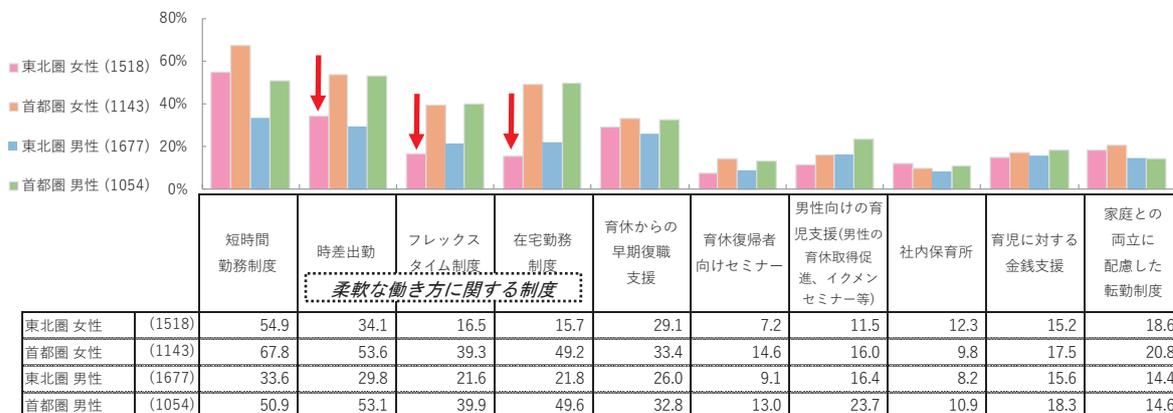
「男性向けの育児支援」については、首都圏男性の23.7%が「制度あり」と回答したのに対して、東北圏男性は16.4%と低かった（ χ^2 二乗検定 $p < 0.001$ ）。

「短時間勤務制度」については、企業において制度導入が義務付けられているが、必ずしも社員が制度を認識しているとは限らない。「制度がある」と回答した割合は、東北圏女性は54.9%であり、首都圏女性の67.8%と比べると12.9ポイントの差が見られた（ χ^2 二乗検定 $p < 0.001$ ）。また東北圏男性の33.6%は4つの属性の中でも最も低く、首都圏男性の50.9%と比べて17.3ポイント低い（ χ^2 二乗検定 $p < 0.001$ ）。

第5章

図表 5-1-1 会社にある制度や取組み

Q4-1. あなたの会社の制度や取組みについておたずねします。それぞれの制度や取組みの有無、利用のしやすさなどを回答してください



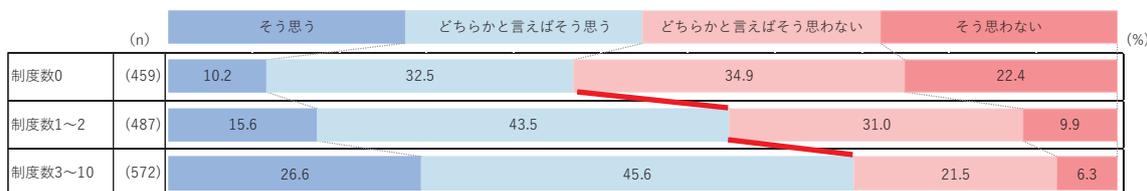
注) Q4-1 の選択肢は「制度があり利用しやすい」「制度があるが利用しづらい」「制度が無い」「制度の有無がわからない」で、「制度があり利用しやすい」「制度があるが利用しづらい」の合計を「制度あり」として集計した

■ 会社にある制度や取組みの数別 育児をしながらのキャリアアップの可能性

働き方や両立支援の制度や取組みが充実（制度数 3～10）していると、育児をしながらキャリアアップすることが可能だ（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は 72.2%と高く、一方、制度が全くない場合は 42.7%と低い。首都圏女性も同様である。

図表 5-1-2 【東北圏女性】会社にある制度や取組みの数別 育児をしながらのキャリアアップの可能性

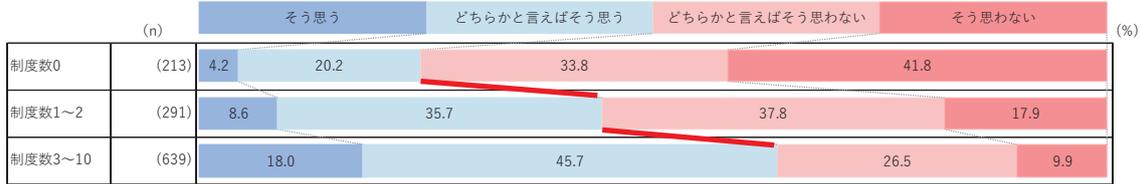
Q34. あなたの職場では、育児をしながらキャリアアップすることが可能だと思いますか



χ^2 二乗検定 p<.001

図表 5-1-3 【首都圏女性】会社にある制度や取組みの数別 育児をしながらのキャリアアップの可能性

Q34. あなたの職場では、育児をしながらキャリアアップすることが可能だと思いますか



χ^2 二乗検定 p<0.001

(2) 長時間労働と育児時間

- ・長時間労働の状況については、エリアによる大きな違いは見られなかった。
- ・東北圏女性は首都圏女性と同様に、長時間労働が多いと「育児時間を確保したい」と回答する割合が高まる。

① 長時間労働の状況

「Q35. あなたは残業や休日勤務など長時間働くことが多いと思いますか」に対し、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、東北圏女性は33.0%、首都圏女性30.8%と大きな差は見られない。

一方、東北圏男性は42.2%、首都圏男性は42.3%と、両エリアとも女性よりも男性の回答割合が高くなっている。

図表 5-1-4 長時間労働の状況

Q35. あなたは残業や休日勤務など長時間働くことが多いと思いますか



第5章

■ 年代別 長時間労働の状況

東北圏・首都圏女性を年代別に見ると、残業や休日勤務など長時間働くことが多いと思うかについて、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、20代は東北圏女性36.1%、首都圏女性34.3%とほぼ同等であった。年代が高くなるにつれ、長時間労働をすると回答した割合が低くなっており、首都圏も同様の傾向が見られた。

図表 5-1-5 【東北圏・首都圏女性】年代別 長時間労働の状況

	(n)	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	(%)
東北圏 女性 20代	(469)	13.9	22.2	29.9	34.1	
首都圏 女性 20代	(317)	9.1	25.2	32.5	33.1	
東北圏 女性 30代	(485)	11.5	22.5	25.4	40.6	
首都圏 女性 30代	(385)	7.0	24.4	29.4	39.2	
東北圏 女性 40代	(564)	11.0	18.4	28.5	42.0	
首都圏 女性 40代	(441)	6.6	21.3	30.2	42.0	

■ 企業規模別 長時間労働の状況

東北圏・首都圏女性を企業規模別に見ると、残業や休日勤務など長時間働くことが多いと思うかについて、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、301人以上の企業において東北圏女性が37.3%と最も高かった。東北圏では企業規模が大きいほど「そう思う」「ややそう思う」の割合が増加している。

図表 5-1-6 【東北圏・首都圏女性】企業規模別 長時間労働の状況

	(n)	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	(%)
11~100人 東北圏	(641)	11.4	18.1	27.9	42.6	
11~100人 首都圏	(336)	6.8	21.4	31.0	40.8	
101~300人 東北圏	(314)	13.7	18.5	27.4	40.4	
101~300人 首都圏	(170)	8.8	22.9	30.0	38.2	
301人以上 東北圏	(563)	11.9	25.4	28.2	34.5	
301人以上 首都圏	(637)	7.4	24.6	30.5	37.5	

■ 業種別 長時間労働の状況

東北圏女性を業種別に見ると、長時間働くことが多い（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」）との回答が最も多かったのは「教育、学習支援業」の47.9%であった。「情報通信業」が45.2%と続いている。逆に最も長時間労働が少ないのは「建設業」で19.5%であった。

図表 5-1-7 【東北圏女性】業種別 長時間労働の状況

	(n)	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない
建設業	(118)	5.9	13.6	31.4	49.2
製造業	(222)	14.4	14.0	28.8	42.8
情報通信業	(31)	9.7	35.5	19.4	35.5
運輸業、郵便業	(42)	9.5	16.7	21.4	52.4
卸売業、小売業	(164)	10.4	15.2	31.7	42.7
金融業、保険業	(108)	8.3	23.1	32.4	36.1
生活関連サービス業、娯楽業	(40)	17.5	17.5	27.5	37.5
教育、学習支援業	(98)	16.3	31.6	29.6	22.4
医療	(278)	10.4	27.0	27.0	35.6
福祉	(216)	13.4	23.1	26.4	37.0
その他のサービス業	(83)	16.9	18.1	21.7	43.4
その他	(118)	13.6	20.3	26.3	39.8

② 育児時間の希望

育児をしている人に対して「Q37-2. あなたはもっと育児に関わる時間を増やしたいと思いますか」とたずねた。「すでに十分な時間を確保できている」「どちらかと言えば時間を確保できている」の回答割合は、東北圏女性で41.8%と、首都圏女性の48.1%と比べると6.3ポイントの差があった。さらに東北圏女性は「もっと時間を確保したい」の回答割合が23.2%と最も高くなっている。

図表 5-1-8 育児時間の希望

Q37-2. あなたはもっと育児に関わる時間を増やしたいと思いますか

	(n)	すでに十分な時間を 確保できている	どちらかと言えば時間を 確保できている	もう少し時間を 確保したいと思う	もっと時間を確保したい
東北圏 女性	(574)	12.0	29.8	35.0	23.2
首都圏 女性	(318)	15.7	32.4	34.3	17.6
東北圏 男性	(840)	10.4	37.3	35.6	16.8
首都圏 男性	(399)	12.0	35.3	36.6	16.0

注) 「手のかかる子どもはいない」を除く

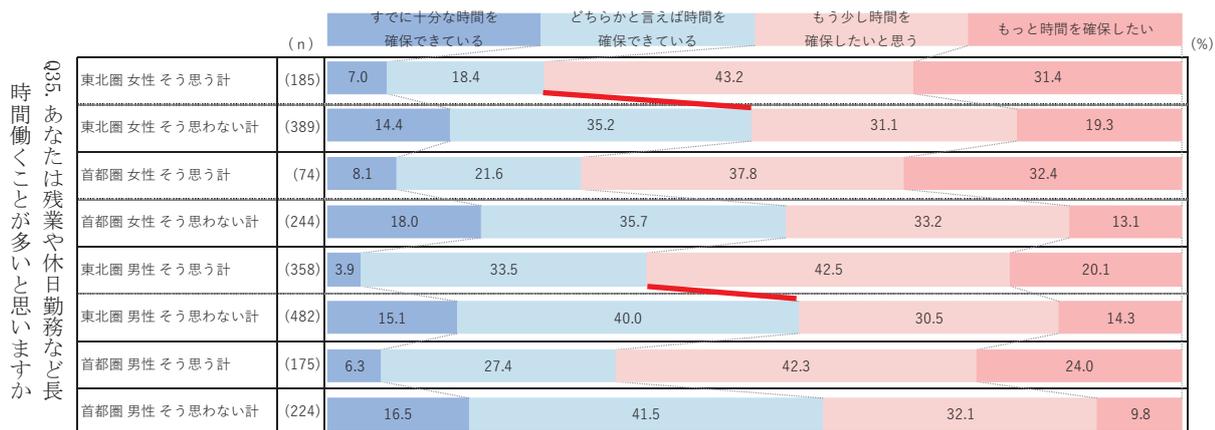
第5章

■ 長時間労働の状況別 育児時間の希望

長時間労働の状況別に育児時間の希望を見ると、「もっと時間を確保したい」「もう少し時間を確保したいと思う」の回答割合は、いずれの属性でも長時間労働が多い人ほど高い。一方、長時間労働が少ない人は回答割合が低く、統計的にも有意差が確認された。

図表 5-1-9 長時間労働の状況別 育児時間の希望

Q37-2. あなたはもっと育児に関わる時間を増やしたいと思いますか



注) 「手のかかる子供はいない」を除く

東北圏女性 χ^2 二乗検定 $p < 0.001$ 、東北圏男性 χ^2 二乗検定 $p < 0.001$
 首都圏女性 χ^2 二乗検定 $p < 0.001$ 、首都圏男性 χ^2 二乗検定 $p < 0.001$

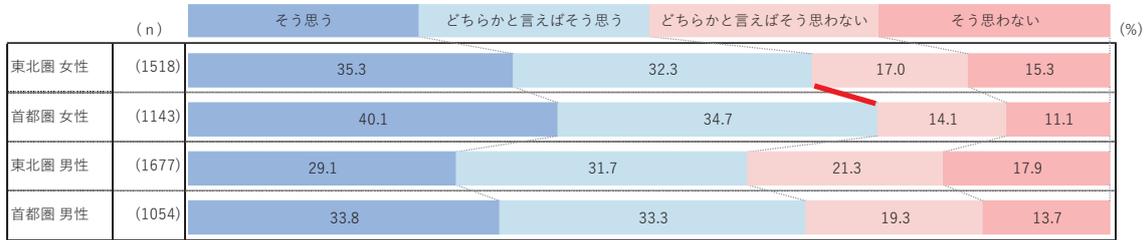
(3) 有給休暇の取得しやすさ

- ・有給休暇について、東北圏男女は首都圏男女に比べ取得しやすいと回答とした割合が低い。

「Q36. あなたの職場は有給休暇を取得しやすいと思いますか」に対して「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、東北圏女性は67.6%と、首都圏女性の74.8%に比べ低い。東北圏男性は60.8%、首都圏男性は67.1%と、女性と同様に東北圏は有給休暇が取得しやすいと回答する割合が低い。

図表 5-1-10 有給休暇の取得しやすさ

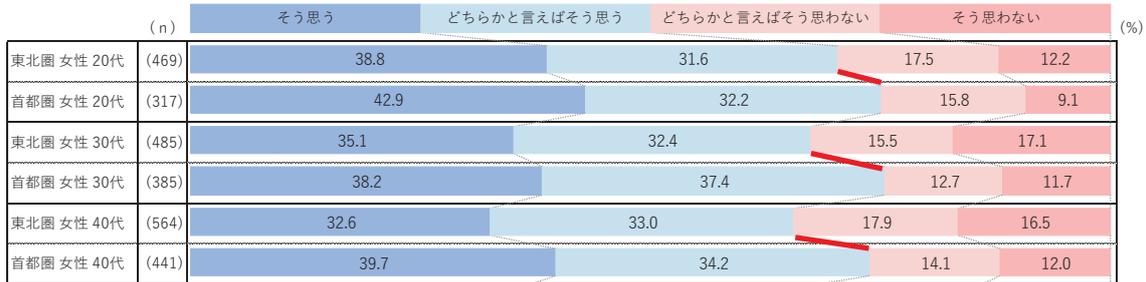
Q36. あなたの職場は有給休暇を取得しやすいと思いますか



■ 年代別 有給休暇の取得しやすさ

東北圏・首都圏女性を年代別に見ると、有給休暇を取得しやすいと思うかについて「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、いずれの年代も首都圏女性の回答割合が高かった。東北圏女性は年代が上がるにつれ回答割合が微減しており、かつ東北圏と首都圏の差が拡大している。

図表 5-1-11 【東北圏・首都圏女性】年代別 有給休暇の取得しやすさ

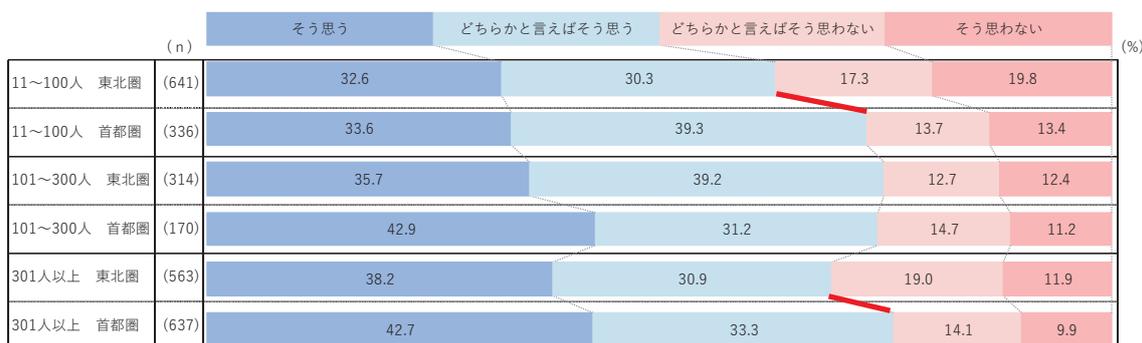


第5章

■ 企業規模別 有給休暇の取得しやすさ

東北圏・首都圏女性を企業規模別に見ると、有給休暇を取得しやすいと思うかについて「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、11～100人の企業において東北圏女性は62.9%、首都圏女性は72.9%と10ポイントの違いがある。301人以上規模では東北圏女性は69.1%、首都圏女性は76.0%と6.9ポイントの違いがあった。101～300人規模ではほぼ同等であった。

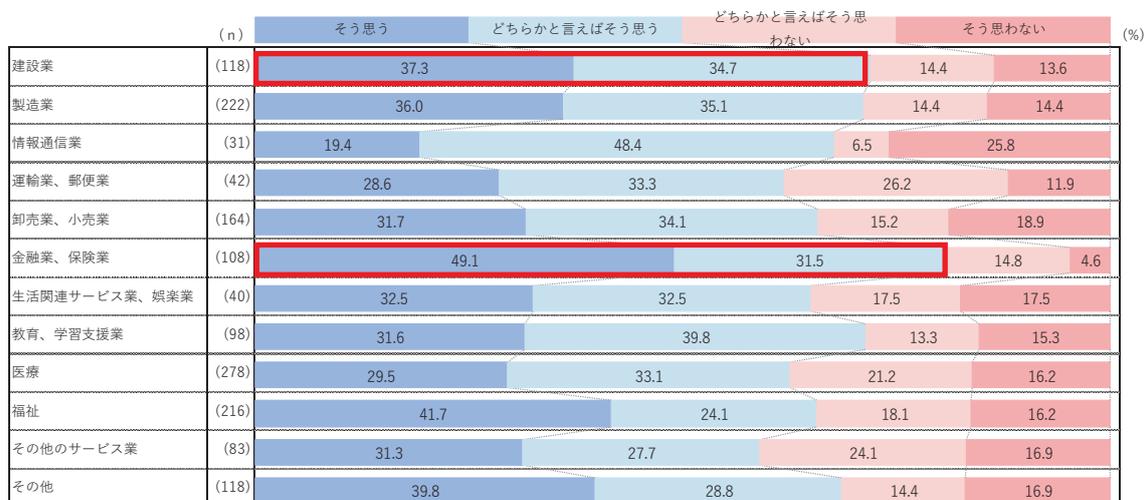
図表 5-1-12 【東北圏・首都圏女性】企業規模別 有給休暇の取得しやすさ



■ 業種別 有給休暇の取得しやすさ

東北圏女性を業種別に見ると、有給休暇を取得しやすいと回答した割合が最も高かったのは「金融業、保険業」で80.6%であった。「その他」以外では、「建設業」72.0%、「教育、学習支援業」71.4%、「製造業」71.1%が続いている。最も有給休暇が取得しづらいと認識されている業種は「その他のサービス業」59.0%であった。

図表 5-1-13 【東北圏女性】業種別 有給休暇の取得しやすさ



第2節 コロナ禍による働き方の変化と女性活躍への効果

(1) 在宅勤務の状況

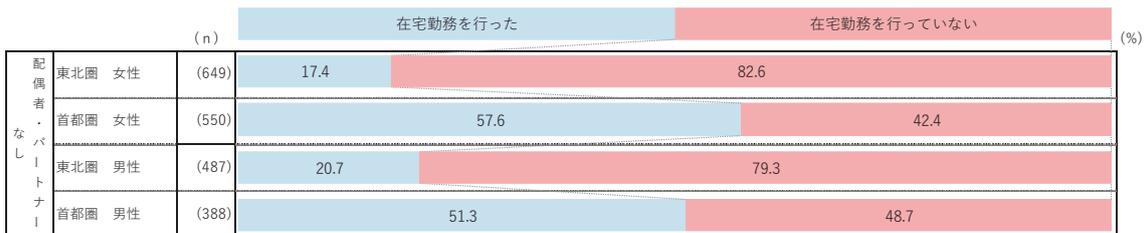
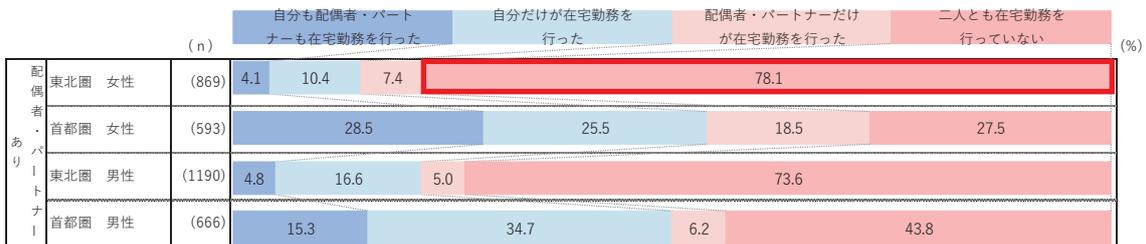
- ・コロナ禍において、東北圏は首都圏と比べ在宅勤務の実施率が低い。配偶者・パートナーがいる人では東北圏は「二人とも在宅勤務を行っていない」が7割を超えている。東北圏女性で二人とも在宅勤務をした人はわずか4.1%に留まり、首都圏女性の28.5%に比べ、その差は大きい。
- ・在宅勤務は企業規模が大きい企業ほど、実施されている。

「Q39. あなたは、新型コロナウイルス感染症対策として在宅勤務を行いましたか」に対して、配偶者・パートナーありの「二人とも在宅勤務を行っていない」の回答割合は、東北圏女性が78.1%と、首都圏女性の27.5%に比べ、50.6ポイントの大きな差が見られる。また、「自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った」の回答割合については、東北圏女性はわずか4.1%に留まり、首都圏女性は28.5%となっている。東北圏男性も4.8%と、首都圏男性15.3%に比べて低く、東北圏と首都圏に大きな違いが見られる（ χ^2 二乗検定 $p < 0.001$ ）。

配偶者・パートナーなしの「在宅勤務を行った」の回答割合は、東北圏女性は17.4%、東北圏男性は20.7%となっており、首都圏女性57.6%、男性51.3%の半分に満たない。

図表 5-2-1 配偶者・パートナーの有無別 在宅勤務実施状況

Q39. あなたは、新型コロナウイルス感染症対策として在宅勤務を行いましたか。配偶者・パートナーがいらっしゃる方は配偶者・パートナーについてもお知らせください



第5章

■ 企業規模別 在宅勤務実施状況

企業規模別に見ると、企業規模が大きくなるにつれて、在宅勤務の実施割合が高くなる傾向が見られる。「自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った」の回答割合は、11～100人規模において、東北圏女性は2.2%と、首都圏女性の17.2%と比べると非常に少ない。東北圏女性は、101～300人規模では4.6%、301人以上規模で6.2%と規模が大きくなるにつれわずかに割合が高くなっている。

図表 5-2-2 企業規模別 在宅勤務実施状況(配偶者・パートナーがいる人)

	(n)	在宅勤務実施状況 (%)			
		自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った	自分だけが在宅勤務を行った	配偶者・パートナーだけが在宅勤務を行った	二人とも在宅勤務を行っていない
配偶者・パートナーあり	東北圏女性 11～100人 (372)	2.2	8.3	7.8	81.7
	東北圏女性 101～300人 (174)	4.6	8.0	4.0	83.3
	東北圏女性 301人以上 (323)	6.2	13.9	8.7	71.2
	首都圏女性 11～100人 (169)	17.2	26.0	20.1	36.7
	首都圏女性 101～300人 (90)	34.4	17.8	13.3	34.4
	首都圏女性 301人以上 (334)	32.6	27.2	19.2	21.0
	東北圏男性 11～100人 (546)	4.4	11.2	5.9	78.6
	東北圏男性 101～300人 (244)	4.9	14.8	4.1	76.2
	東北圏男性 301人以上 (400)	5.3	25.3	4.3	65.3
	首都圏男性 11～100人 (200)	9.0	20.5	7.5	63.0
	首都圏男性 101～300人 (104)	12.5	30.8	9.6	47.1
	首都圏男性 301人以上 (362)	19.6	43.6	4.4	32.3

■ 県別 在宅勤務実施状況

東北圏女性・男性を県別に見ると、在宅勤務の実施割合が最も高いのは男女ともに「宮城県」であった。しかし、男女の差が大きく、「宮城県男性」（41.9%）は「宮城県女性」（29.3%）よりも12.6ポイント高い。逆に、最も在宅勤務の実施割合が低いのは、「秋田県女性」の13.4%であり、「二人とも在宅勤務を行った」の回答割合は0.0%であった。

図表 5-2-3 【東北圏女性・男性】県別 在宅勤務実施状況（配偶者・パートナーがいる人）

	(n)	在宅勤務実施状況 (%)				
		自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った	自分だけが在宅勤務を行った	配偶者・パートナーだけが在宅勤務を行った	二人とも在宅勤務を行っていない	
配偶者・パートナーあり	女性 青森県	(99)	5.1	7.1	6.1	81.8
	男性 青森県	(137)	2.9	9.5	4.4	83.2
	女性 岩手県	(99)	4.0	7.1	7.1	81.8
	男性 岩手県	(137)	6.6	13.1	2.9	77.4
	女性 宮城県	(171)	7.0	12.9	9.4	70.8
	男性 宮城県	(267)	8.2	29.2	4.5	58.1
	女性 秋田県	(75)	0.0	10.7	2.7	86.7
	男性 秋田県	(91)	0.0	11.0	8.8	80.2
	女性 山形県	(104)	2.9	9.6	5.8	81.7
	男性 山形県	(112)	0.0	14.3	4.5	81.3
	女性 福島県	(140)	1.4	13.6	8.6	76.4
	男性 福島県	(206)	5.3	14.6	3.9	76.2
	女性 新潟県	(181)	5.5	9.4	8.3	76.8
	男性 新潟県	(240)	4.6	13.8	6.7	75.0

第5章

■ 業種別 在宅勤務実施状況

東北圏女性を業種別に見ると、在宅勤務の実施割合が最も高いのは「金融業、保険業」の49.2%であった。なお、「医療」や「福祉」はエッセンシャルワークであるため、「行っていない」という回答割合が非常に高くなっている。

図表 5-2-4 【東北圏女性】業種別 在宅勤務実施状況（配偶者・パートナーのいる人）

	(n)	在宅勤務の実施状況 (%)			
		自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った	自分だけが在宅勤務を行った	配偶者・パートナーだけが在宅勤務を行った	二人とも在宅勤務を行っていない
建設業	(56)	1.8	16.1	8.9	73.2
製造業	(115)	2.6	4.3	6.1	87.0
情報通信業	(18)	11.1	33.3	11.1	44.4
運輸業、郵便業	(25)	16.0	12.0		72.0
卸売業、小売業	(88)	5.7	10.2	8.0	76.1
金融業、保険業	(65)	4.6	36.9	7.7	50.8
宿泊業、飲食サービス業	(17)	11.8	17.6		70.6
生活関連サービス業、娯楽業	(23)	4.3			95.7
教育、学習支援業	(54)	16.7	16.7	9.3	57.4
医療	(169)	2.4	3.0	7.7	87.0
福祉	(141)	3.5	5.7		90.8
その他のサービス業	(47)	4.3	14.9	6.4	74.5
その他	(51)	9.8	7.8	9.8	72.5

注) サンプル数が30以下は参考値

(2) 男女の家事・育児分担比率の変化

- ・在宅勤務前の家事・育児分担比率を見ると、夫の家事育児分担が6割以上と回答する東北圏男性が33.0%なのに対し、東北圏女性では8.0%に留まり、男性自身が考えているほど、女性は夫が家事育児を行っているとは評価しておらず、男女のギャップが大きい。
- ・コロナ禍による在宅勤務の導入によって、妻の家事・育児分担割合が6割以上と回答した割合については、女性は70.1%から67.6%、男性は47.5%から40.1%へ減少し、妻の家事・育児の軽減が図られたと見られる。

① 在宅勤務実施前の家事・育児分担比率

「Q40. 新型コロナウイルス感染症対策として在宅勤務を実施した前後において、あなたと、配偶者・パートナーとの家事・育児負担比率をお知らせください」に対して、妻がすべての家事・育児を行う「妻10:0夫」の家事・育児負担比率では、東北圏女性の11.0%と首都圏女性の11.5%は同等であった。また、妻夫半々の「妻5:5夫」の比率については、東北圏女性26.0%は、首都圏女性15.8%に比べ10.2ポイント高い。しかしながら、夫の家事・育児分担割合が6割以上（「妻4:6夫」～「妻0:10夫」）との回答割合は、東北圏女性8.0%よりも首都圏女性12.5%に比べやや低い。

一方、夫の家事・育児分担割合が6割以上と回答した割合は、東北圏男性の33.0%に対し、東北圏女性は8.0%に留まっている。首都圏についても、首都圏男の34.5%に対して首都圏女性は12.5%となっている。夫婦間での調査は行っていないが、男性自身が考えているほど、女性は男性が家事育児を行っていると評価しておらず、ギャップが大きい。

図表 5-2-5 在宅勤務前の家事・育児分担比率

Q40. 新型コロナウイルス感染症対策として在宅勤務を実施した前後において、あなたと、配偶者・パートナーとの家事・育児負担比率をお知らせください※凡例は「妻10:0夫」＝「妻が10割負担、夫は0割負担」という意味



注) 夫(男性)が在宅勤務を行った回答データを使用。女性は「自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った」「配偶者・パートナーだけが在宅勤務を行った」、男性は「自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った」「自分だけが在宅勤務を行った」

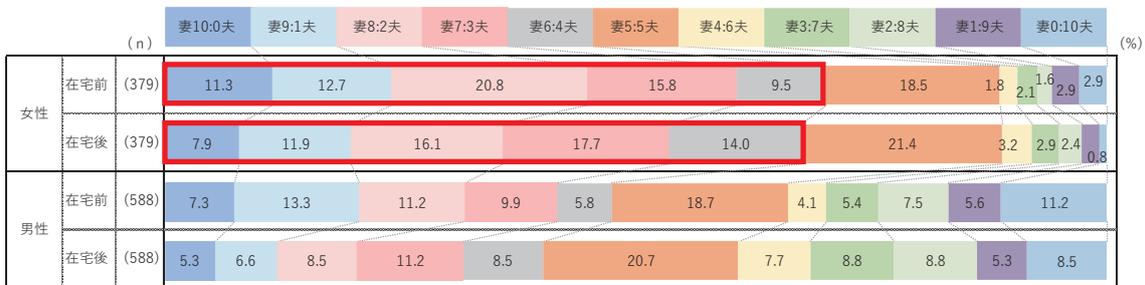
第5章

② 在宅勤務実施前後の家事・育児分担割合

在宅勤務前後の配偶者・パートナーとの家事・育児負担比率の変化について男女別に見ると、妻の家事・育児分担割合が6割以上（「妻10:0夫」～「妻6:4夫」）と回答した割合については、女性は70.1%から67.6%に減少しており、また、「妻5:5夫」も18.5%から21.4%に増加している。一方、男性については、妻の家事・育児分担割合が6割以上と回答した割合は、47.5%から40.1%の減少が見られる。夫が6割以上と回答した割合では、女性の回答はほぼ変化していないのに対して、男性は33.8%から39.1%に増加している。

在宅勤務前後の家事・育児負担比率の変化は、女性よりも、男性自身の家事・育児参加への評価は高めであるが、妻の家事・育児分担の軽減が図られたと見られる。

図表 5-2-6 【女性・男性】在宅勤務前後の家事・育児分担割合



注) 夫(男性)が在宅勤務を行った回答データを使用。女性は「自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った」「配偶者・パートナーだけが在宅勤務を行った」、男性は「自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った」「自分だけが在宅勤務を行った」

<参考>

図表 5-2-7 在宅勤務前後の家事・育児分担割合



注) 夫(男性)が在宅勤務を行った回答データを使用。女性は「自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った」「配偶者・パートナーだけが在宅勤務を行った」、男性は「自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った」「自分だけが在宅勤務を行った」

(3) 配偶者・パートナーの家事、育児などへの取組み姿勢（自由記述）

① 二人とも在宅勤務を行った

在宅勤務以外の時と変わらない家庭もあったようだが、妻側からは、頼まなくても配偶者が自ら家事を行ってくれることへの感謝等が見られた。夫側は、今まで気付かなかった家事の大変さがわかった人もいた。また、男女とも子どもと過ごせることがよかったという感想が散見された。

② 自分だけが在宅勤務を行った

男女とも家事の負担が多くなったという意見が見られた。特に妻だけが在宅している場合は仕事とみなしてもらえない、ということが指摘されている。（夫の場合はそのようなことは起こっていない）

③ 配偶者だけが在宅勤務を行った

夫は妻だけが在宅している場合は、負担が増えたことによる気遣いをしている人もいるが、多くは「普段と変わらない」という認識だった。妻側は、夫のみが在宅していても、家事を一切しないケースも見られ、憤りの声も多く見られた。一方、自主的に家庭のことをやるようになった夫もいるようで家庭により様々であった。

① 二人とも在宅勤務を行った

■ 妻の声

- ・家事などについては全く期待していなかったが、夫が自ら買い物に行き食事を用意してくれていた。我が家はとても良い方向に向いたが、周りはそうでもなく、一日在宅でゴロゴロしている旦那さんとか子供がいる家庭の人はかわいそうでした。（30代女性／医療／新潟県）
- ・在宅勤務をしてみて通勤時間による拘束がなく、その分家事に当てることができたので、今後の働き方に大きな影響があった。（20代女性／教育・学習支援業／新潟県）
- ・子どもと普段顔を合わせる機会が少なかったのでコミュニケーションが十分に取れたと思う。平日に夕飯を一緒に食べたり、一緒にお風呂に入ることは不可能だったので、それが短期の間でも可能になり、私としても子どもにとってもよかった。（30代女性／宿泊業・飲食サービス業／宮城県）
- ・（配偶者が）単身赴任中であるが、在宅勤務のおかげで平日自宅で過ごせるようになった。家事負担をしてくれ助かった。（40代女性／教育・学習支援業／新潟県）
- ・元々配偶者の方が家事を担ってくれているので変化はない（30代女性／教育・学習支援業／新潟県）

第5章

■ 夫の声

- ・やらなければ分からない家事・育児・雑務が多いことに気づけた。(30代男性／その他の業種／新潟県)
- ・家事の種類の多さに驚いた。(30代男性／卸売業・小売業／青森県)
- ・在宅勤務により、子供と過ごせる時間が増えてよかった面もある。(40代男性／その他の業種／山形県)
- ・子供が家にいる中での仕事は全く効率が上がらない。はっきり言って無理。(30代男性／製造業／宮城県)
- ・自宅での食事が増えたので、炊事の機会も増えた。炊事が苦手な妻より、家事の負担は増えた。(40代男性／教育・学習支援業／福島県)

② 自分だけが在宅勤務を行った

■ 妻の声

- ・パートナーは全く家事をしなくなった。(40代女性／運輸業・郵便業／宮城県)
- ・在宅は家族内からは仕事とみられない為(夜中に業務をこなしていることもあったが)まるで休みであるかのように家事をこなさねばならない。休んでいるわけではなかったので精神的にストレスフルだった。(40代女性／医療／福島県)
- ・配偶者の帰宅時間が早まり迷惑だった。(40代女性／教育・学習支援業／秋田県)
- ・しばらく手伝ってくれなくて、ある日大喧嘩してしまい、その時に手伝って欲しいと泣きながら訴えそれ以来手伝ってくれるようになった。(30代女性／福祉／青森県)
- ・在宅なのだから家事の負担は増えてもいいだろう、と考えていると思う(30代女性／運輸業・郵便業／秋田県)
- ・私に全て任せているつもりはないと言っていたが、実際はなにもしてくれなくなったので不満が募りました。(30代女性／その他の業種／新潟県)
- ・家にいる間は体の疲れを休めることを優先にしつつ、家事などを本人のペースで手伝ってくれた。(20代女性／金融業・保険業／宮城県)

■ 夫の声

- ・自分が洗濯など家事を行う事が多くなった。(40代男性／製造業／宮城県)
- ・自分ももう少し家事を担当しなくてはならないと感じた。(40代男性／教育・学習支援業／青森県)
- ・在宅が多くなった分育児、家事が増えた。元々自分の方が育児は多かったが、さらに増え、配偶者は減った。(30代男性／福祉／宮城県)
- ・業務には少なくとも集中出来なかった。(30代男性／その他の業種／宮城県)

③ 配偶者だけが在宅勤務を行った

■ 妻の声

- ・こちらからのお願いごとを頼みやすくなった。(40代女性/製造業/岩手県)
- ・パートナーからしたら子供の帰宅後は中々仕事に集中しづらいと思うが、こちらからしたら育児の手が多少増えるだけで負担感がだいぶ減った。(20代女性/運輸業・郵便業/新潟県)
- ・私は短い昼休みに帰って洗濯物たたんで10分でご飯を食べて職場へ帰る生活を毎日しているのに在宅の日のゴミ当番くらいしやがれ!ごはんくらい炊いておいてくれ!(40代女性/卸売業・小売業/新潟県)
- ・以前より積極的に取り組むようになった(20代女性/卸売業・小売業/福島県)
- ・在宅勤務になっても、家事の分担は全て自分であった。特にやらせようともしていないので問題ない。(20代女性/福祉/福島県)
- ・食事の支度や掃除を自らしてくれるようになった(40代女性/運輸業・郵便業/新潟県)
- ・以前より家事育児の苦労をわかってくれた(30代女性/製造業/宮城県)
- ・世間一般的に在宅ワークが広がった影響で、夫も会社に在宅ワークの実施を働きかけ、家にいる時間を長く取ってくれた。子供と過ごす時間も増え、上の子のお風呂や寝かしつけも1人でやってくれるようになった。(30代女性/卸売業・小売業/福島県)
- ・在宅勤務中は、いつも以上に自室にこもっていました。家にいるなら洗濯の取り込みくらいできないか?頼んだら無理っぽい感じに言われて。なぜかいつも以上に子どもの相手をしなくて、本当にいら立ちました。(30代女性/教育・学習支援業/宮城県)

■ 夫の声

- ・自宅に長時間居ることになるので、家事・育児などを行う比率はさらに高まってしまう状況だった。(40代男性/製造業/福島県)
- ・配偶者が在宅になったからと言って、自分が出来る家事育児を怠らないようにしていた。なので変化無し。(20代男性/福祉/新潟県)
- ・家にいる時間が長いので家事のほとんどをこなしてくれる。それに不満を漏らす事無く非常に有難いと思っている。(30代男性/製造業/宮城県)
- ・とてもよくやってくれていた。育児をしながらの在宅はとても難しい中でも、両立を目指して頑張ってくれている。(30代男性/教育・学習支援業/宮城県)
- ・自分が休みの日は、出来るだけ家事、育児をする。(40代男性/卸売業・小売業/新潟県)

(4) 期待される在宅勤務の効果

- ・在宅勤務の効果として、東北圏女性で回答割合が高かったのは「働く場所の制約がなくなると思う」(73.2%)「自己啓発や趣味の時間が持てると思う」(72.8%)「育児や介護をしながら就業継続がしやすくなると思う」(61.9%)であった。
- ・在宅勤務の効果として「育児や介護をしながら就業継続しやすくなると思う」と回答した割合は4属性すべてで6割を超えている。また「男性の育児・家事、介護等の時間が増加すると思う」は両エリアとも女性より男性の回答割合が高い。
- ・いずれの項目においても東北圏は首都圏より評価が低くなっているが、東北圏の在宅勤務実施率の低さがその原因と推測する。

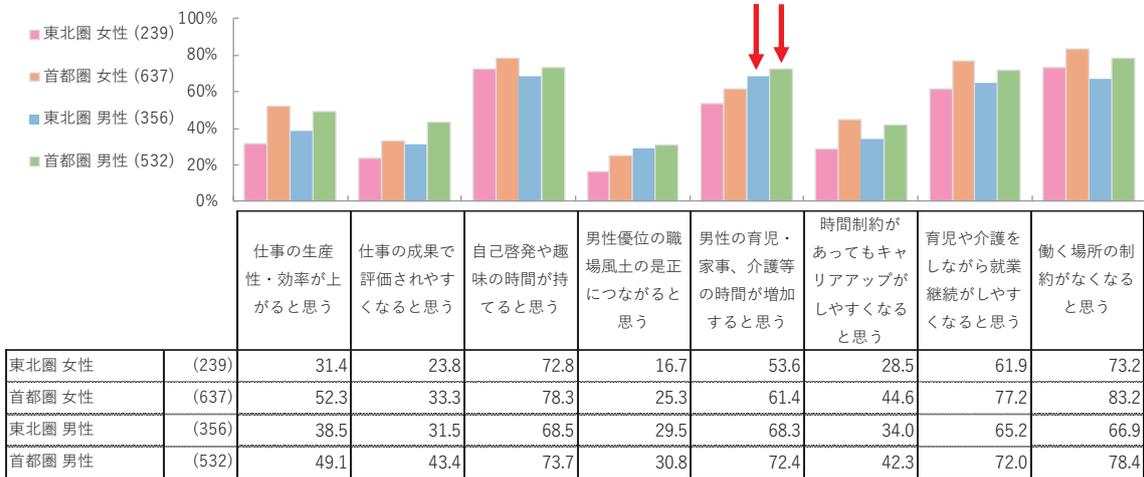
「Q42. 新型コロナウイルス感染症拡大で在宅勤務をした経験をふまえ、在宅勤務が日常的になる場合のあなたのお考えをお知らせください」に対して、東北圏女性の回答割合は、1位「働く場所の制約がなくなると思う」73.2%、2位「自己啓発や趣味の時間が持てると思う」72.8%、3位「育児や介護をしながら就業継続がしやすくなると思う」61.9%となっている。首都圏女性の割合についても、東北圏女性と同様の結果となったが、1位「働く場所の制約がなくなると思う」は83.2%と、東北圏女性よりも10ポイント高い。

「男性の育児・家事、介護等の時間が増加すると思う」の回答割合は、両エリアともに女性よりも男性が高かった。

なお、すべての項目について、東北圏男女は首都圏男女に比べ回答割合が低い傾向にある。回答者はすべて在宅勤務実施者ではあるが、東北圏では首都圏よりも在宅勤務の実施率が低く、またその実施も一時的なコロナ対策として捉えられていたと考えられ、東北圏ではその効果を認識するまで至っていない可能性がある。以下では、首都圏を在宅勤務の先行エリアとして捉え、首都圏ではどういった効果が認識されているのかを中心に分析を行う。

図表 5-2-8 在宅勤務の効果

Q42. 「在宅勤務を行った」と回答した方にお伺いします。新型コロナウイルス感染症拡大で在宅勤務をした経験をふまえ、在宅勤務が日常的になる場合のあなたのお考えをお知らせください

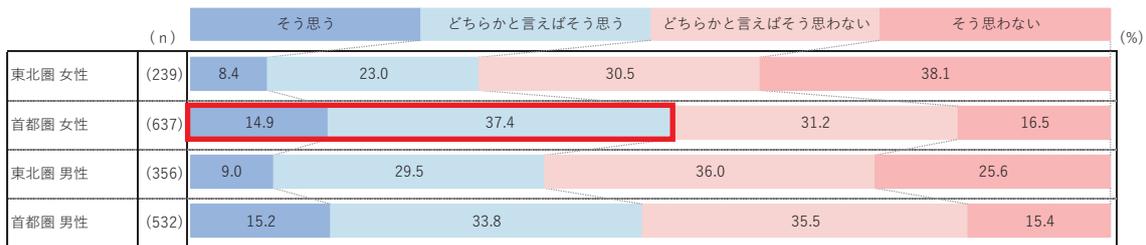


注1) 「自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った」もしくは「自分だけが在宅勤務を行った人」のみ
 注2) 「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の計

(a) 仕事の生産性・効率が上がると思う

「仕事の生産性が上がる」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、東北圏男女と首都圏男女の認識の違いが大きい。首都圏女性 52.3%に対して東北圏女性 31.4%は 20.9 ポイント低い。首都圏男性は 49.0%、東北圏男性は 38.5%となっている。

図表 5-2-9 在宅勤務の効果「仕事の生産性が上がる」



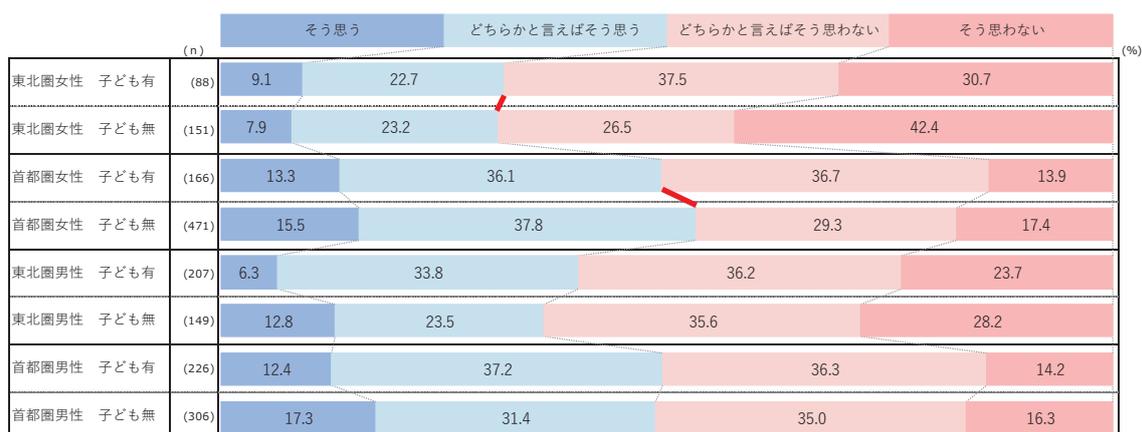
注) 「自分も配偶者・パートナーも在宅勤務を行った」もしくは「自分だけが在宅勤務を行った人」のみ
 (以降のデータも同様)

第5章

■ 子どもの有無別 在宅勤務の効果「仕事の生産性が上がる」

子どもの有無別に見ると、「仕事の生産性が上がる」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、首都圏女性では、子どもがいない人（53.3%）は、子どもがいる人（49.4%）に比べわずかに高い。一方、東北圏女性は子ども有無に関わらず低い。

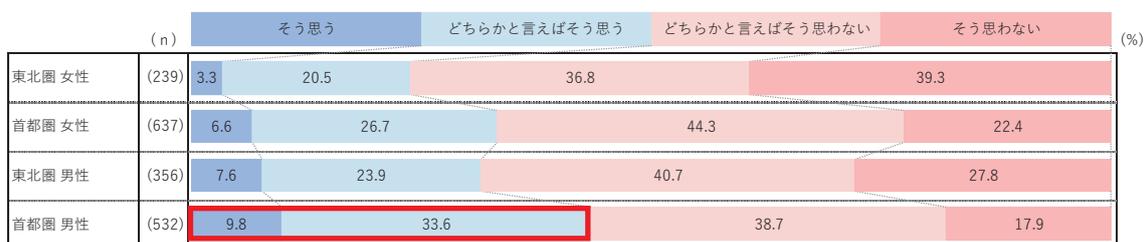
図表 5-2-10 子ども有無別 在宅勤務の効果「仕事の生産性が上がる」



(b) 仕事の成果で評価されやすくなると思う

「仕事の成果で評価されやすくなる」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合が最も高かったのは、首都圏男性の43.4%であった。

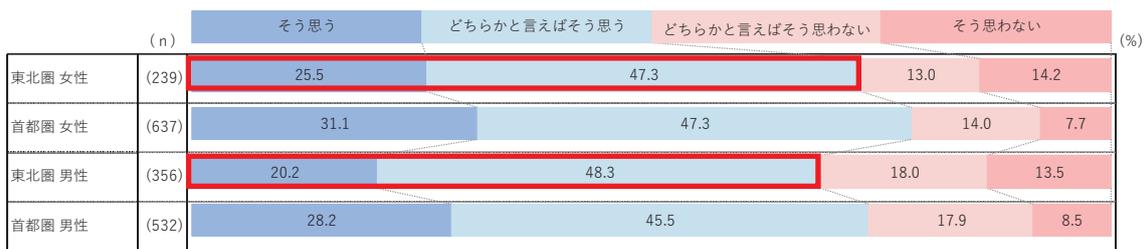
図表 5-2-11 在宅勤務の効果「仕事の成果で評価されやすくなる」



(c) 自己啓発や趣味の時間が持てると思う

「自己啓発や趣味の時間が持てる」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、東北圏女性の72.8%は、首都圏女性の78.4%よりは低いですが、7割を超える人が、在宅勤務の効果のひとつとして自己啓発や趣味の時間が持てると考えている。両エリアとも男性よりも女性の回答割合が高くなっている。

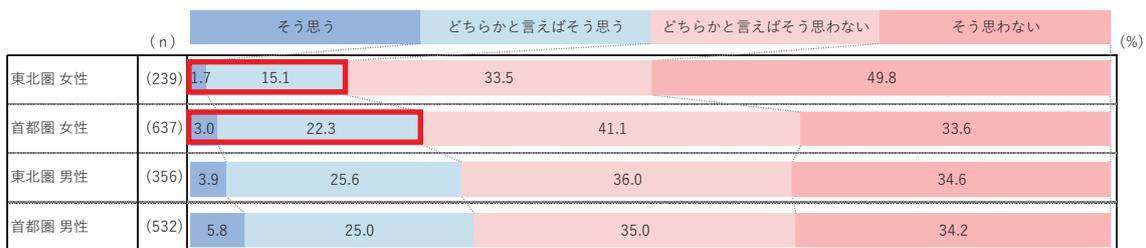
図表 5-2-12 在宅勤務の効果「自己啓発や趣味の時間が持てる」



(d) 男性優位の職場風土の是正につながると思う

「男性優位の職場風土の是正につながる」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、東北圏女性の16.8%が4属性の中で最も低く、かつ「そう思わない」の回答割合も49.8%と、他の属性よりも10ポイント以上高くなっている。首都圏女性の「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合も25.3%と、高い割合とは言えない結果であった。

図表 5-2-13 在宅勤務の効果「男性優位の職場風土の是正につながる」

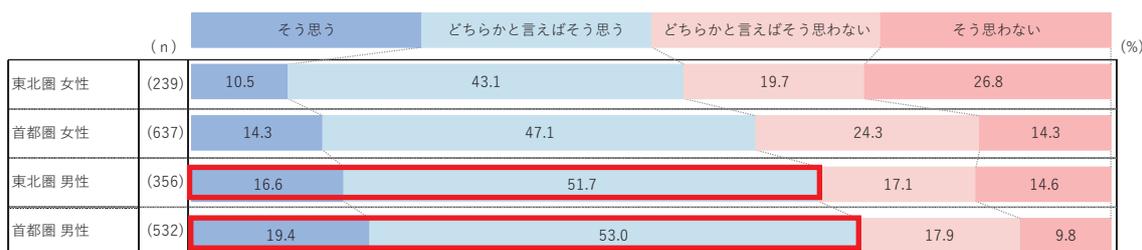


第5章

(e) 男性の育児・家事、介護等の時間が増加すると思う

「男性の育児・家事、介護等の時間が増加する」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」の回答割合は、東北圏男性は68.3%、首都圏男性は72.4%と、両エリアとも女性より高い。なお、東北圏女性も53.6%が肯定的だが、4属性の中でその割合が最も低かった。

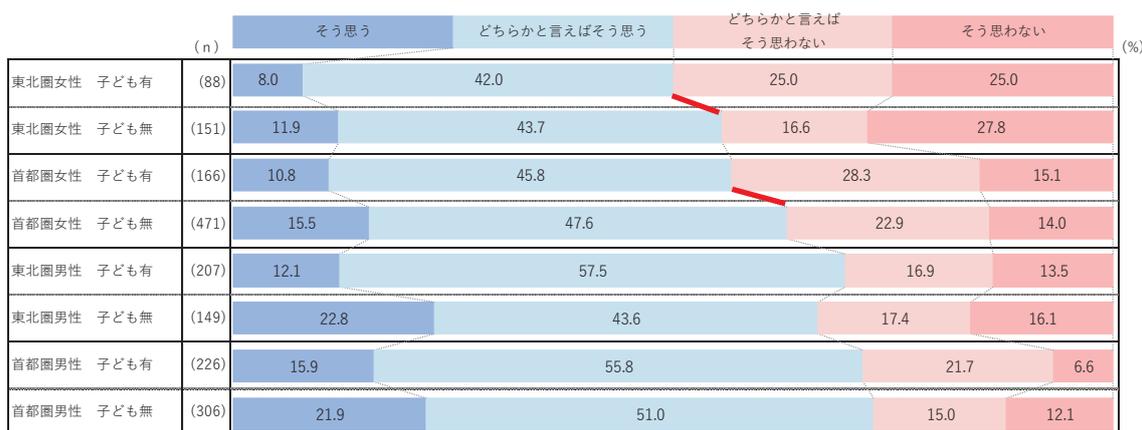
図表 5-2-14 在宅勤務の効果「男性の育児介護等の時間が増加する」



■ 子どもの有無別 在宅勤務の効果「男性の育児介護等の時間が増加する」

子どもの有無別に見ると、「男性の育児介護等の時間が増加する」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、子どもがいる東北圏女性が50.0%なのに対して、子どもがいない人は55.6%と、子どもがいない人が男性の育児介護等の時間が増加する効果を期待している。首都圏女性も同様に、子どもがいる人は56.6%、いない人が63.1%となっている。

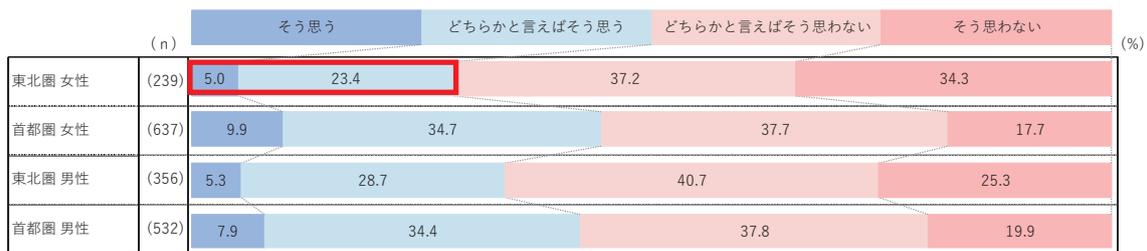
図表 5-2-15 子どもの有無別 在宅勤務の効果「男性の育児介護等の時間が増加する」



(f) 時間制約があってもキャリアアップがしやすくなると思う

「時間制約があってもキャリアアップがしやすくなる」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、東北圏女性の28.4%が4属性の中で最も低く、また首都圏女性の44.6%と差が大きい。東北圏男性は34.0%、首都圏男性は42.3%となっている。

図表 5-2-16 在宅勤務の効果「時間制約があってもキャリアアップしやすくなる」



■ 年代別 在宅勤務の効果「時間制約があってもキャリアアップしやすい」

年代別に見ると、「時間制約があってもキャリアアップしやすいと思う」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、いずれの年代でも東北圏女性の割合が最も低い。東北圏女性以外の属性では、年代が上がるにつれ回答割合が減少する傾向が見られ、男女それぞれ回答割合が最も高いのは20代の首都圏女性47.2%と首都圏男性の54.0%となっている。

図表 5-2-17 年代別 在宅勤務の効果「時間制約があってもキャリアアップしやすくなる」



第5章

(g) 育児や介護をしながら就業継続がしやすくなると思う

「育児や介護をしながら就業継続がしやすくなる」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、首都圏女性が77.2%と非常に高い。一方、東北圏女性は、他の属性と比べて最も低いが、61.9%が肯定的に考えている。

図表 5-2-18 在宅勤務の効果「育児や介護しながら就業継続しやすくなる」

	(n)	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	(%)
東北圏 女性	(239)	22.2	39.7	18.8	19.2	
首都圏 女性	(637)	27.9	49.3	14.6	8.2	
東北圏 男性	(356)	13.2	52.0	18.8	16.0	
首都圏 男性	(532)	20.3	51.7	17.7	10.3	

(h) 働く場所の制約がなくなると思う

「働く場所の制約がなくなると思う」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答割合は、首都圏女性が83.2%と非常に高くなっている。首都圏と東北圏では通勤時間が大きく異なるが、東北圏女性も73.2%が働く場所の制約がなくなると回答している。

図表 5-2-19 在宅勤務の効果「働く場所の制約がなくなる」

	(n)	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	(%)
東北圏 女性	(239)	34.7	38.5	11.7	15.1	
首都圏 女性	(637)	40.5	42.7	12.7	4.1	
東北圏 男性	(356)	25.0	41.9	19.7	13.5	
首都圏 男性	(532)	36.5	41.9	14.7	7.0	